



発行
大島郡医師会
奄美市名瀬塩浜町3-10
TEL0997-52-0598
FAX0997-54-0597
印刷 南海日日新聞社

医師会の病院丘所虹訪問介護事業所訪問看護ステーション所丘居宅介護支援事業グループホーム虹の園養護老人ホームなぎさ臨床検査センター

大島郡医師会の現状と課題

(令和4年度)

大島郡医師会会長 向井 奉文

常日頃より郡医師会の運営に
関しまして会員の並々ならぬご
協力を頂き感謝しています。お
陰で医師会の存在意義がますま
す高まりつつあると自負してい
ます。

さて、郡医師会の現状と今年度の課題を述べることで、会員の一層のご理解を賜りたいと思います。

まず、コロナ対応です。周知の如く宿泊療養所の運営を主に郡医師会が担っています。昨年

10月、2棟目の療養所が開設され、今年1月、新型コロナの急増に伴い2棟目の運営も開始となりました。1・2棟の連携等懸念材料もないわけではなかつたのですが、担当の野崎理事及び医師会事務局の奮闘で滑り出しあります。

課題としては宿泊療養所とは別のところにあります。それは新型コロナが感染症の第2類に分類されているため、保健所に相当の負荷が掛かっていると推測されることです。自宅待機者が増えたときその管理を如何にするかという問題です。かかりつけ医と保健所の一層の連携が必要と考えています。それは郡

医師会病院の病棟再編に関してはなかなか困難な面があります。介護医療院に関しては待機者もある程で、開設は結果として理に適っていると考えます。課題としては待機者も相当数いるところから増床を予定しています。奄美市と協議しているところです。

回復期リハビリ病棟については開設して1年未満ですが、実際の需要は想つた程ではなく若干の苦戦を強いられています。実際の需要はそれほどではないとレセプトデータの解析からある程度予想は可能であつたのですが、回復期リハビリ病棟の開設は医師会病院の長年の課題で、また地域で医師会病院が率先して果たすべき役割でもあつたのです。最近は漸く病棟

師会の現状と課題 和4年度)

救急とACPについて意義ある展開が為されたと確信しています。今後も地域包括ケアに関わる問題が出てくると思います。今後も各課題について肅々と進めて行く予定です。各会員の参加をお願い申し上げます。

医師会臨床検査センターは、特に新型コロナのPCR検査を担当したことでのこの地のコロナ対応の質を大幅に向上することができました。又、無料PCRを担当したことでも特筆に値することです。

奄美看護福祉専門学校についてはこの地域に若者が一定数残っているのに実際に大きな役割を果たしています。約2000人の卒業生の中、約800人が卒後当地に残っています。一昨年度は看護

が埋まりつつあります。今後の課題としてはリハビリの質の向上と、需要の向上に伴い病床を増加することです。担当の医師や職員の理解を得ながら進めていくことが重要です。会員の一層の尽力をお願い申し上げます。

虹の丘については喜入施設長の下、職員がよく頑張つて維持されています。年々複雑化する介護報酬の変化にも対応出来ています。今後もその姿勢を貫いて頂きたいと思います。

地域包括ケアに関わる地域包括ケア交流会については、担当者の多大な努力の元、この3月で46回を数え、今や地域包括ケア交流会は無くてはならない存在となっています。昨年度はACPについて議論することが多く、特に

之島で議論し直すとの一定の結論が得られました。県病院の回復期リハへの進出については当地の調整はなかなか困難で、県病院全体の問題でもあることから、その調整を県の調整会議に託すこととなりました。

最後に、『コロナ禍』に見舞われたこの2～3年世界の様相は随分変わりました。それに掉さず、うにロシアが仕掛けた“ウクライナ戦争”は我々の世界観を一変させつつあります。

予期せぬ困難が待ち受けているかもしれません、医師会としては、行政や関係各位と連携しながら我々の責任を全力で果たしつつ今年度に備えたいと思いま

こども・かいご福祉科とも受験者が減に見舞われましたが、昨年度は学園側や関係者の努力により大幅の受験者増と持ち直し、特に子ども・かいご福祉科は入学者が増加しています。会員各位の一層の助力をお願い申し上げます。

地域医療構想は、昨年度はコロナの関係で専門部会・調整会議となつてもそれだけ1回の開催となりました。様々な議題がありましたが、主には徳之島徳洲会の新築移転に伴う50床増床の課題と県立大島病院の休床している50床のうち36床を回復期リハビリに転換するという課題です。徳之島徳洲会の増床については、新たに無床化する予定の診療所が判断した事から徳之島全体で270床を超えない範囲で増床計画を進

令和3年度第3回理事会

去る2月5日(土)に令和3年
度第3回定期理事会が午後6時

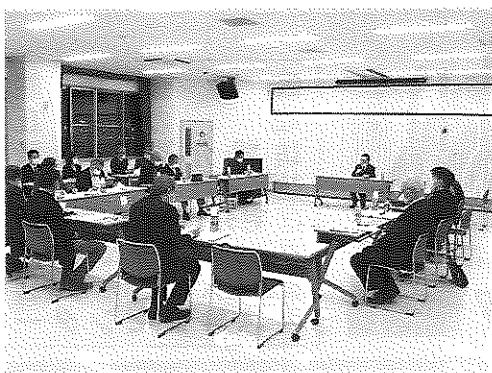
非常に寂しい感がござります。

生も無事早く到着できてよかったです。そういうことで実りある議論をお願いしたいと思つています。よろしくお願いします」

その後、会長を議長として議

3回目ワクチン接種での副作用等状況について(岩城予防接種担当理事)

4年度人事異動
(令和4年4月1日付)



理事会を始める前にお二人の先生への黙とうを捧げましたけれどもこの10年間を振り返つてみますと群島内で9名の医師がお亡くなりになりました。その中で次の世代にバトンタッチされた先生方、事情により閉院された先生方それぞれで

3分から医師会館4階にて開催されました。開催前に昨年末(12月28日)にご逝去された稻純一先生、今年に入り1月16日にご逝去された泰江力先生両先生のご冥福を祈り黙祷が捧げられました。

県内では奄美が最初の感染拡大となりましたけれども、今のところ見事に対応してくれていると思います。これも皆さんのがん協力をおかげだと大変感謝しております。引き続き皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

次に地域医療構想の専門部会が久しぶりに行われました。奄美医療圏内、県立大島病院が回復期をやりたいということ、徳之島徳洲会が奄美の病床を徳之島に持つて行くというこれは地域医療構想全体のあり方から疑念もあるかと思われますので、それに関しましては皆さんの意見も伺いたいと思います。

今日はこのような天気になりましたが、沖永良部から町田先

しかし私たちは今、新型二回目オミクロン株に対する予防接種、あるいはナに対する予防接種、あるいはオミクロン株に対する対応を徹底して行っているところであります。デルタ株に対しても、またオミクロン株、あるいは予防接種に対しても会員の先生方が最善を尽くしてくれている。非常に感謝しております。県の医師会も奄美の対応を高く評価しているところであります。

- | | | |
|---|--|--|
| (1) 第1号議案 医師会事業計画(案) | (2) 第2号議案 郡医師会一般会計収支予算(案) | (3) 第3号議案 郡医師会特別会計収支予算(案) |
| 令和4年度大島郡医師会病院収支予算(案) | 令和4年度大島郡医師会一般会計収支予算(案) | 令和4年度大島郡医師会特別会計収支予算(案) |
| 口、介護老人保健施設虹の丘
収支予算(案) | 八、臨床検査センター収支予
算(案) | 八、臨床検査センター収支予
算(案) |
| (4) 第4号議案 令和4年度公益社
団法人大島郡医師会収支予算(案) | (5) 第5号議案 鹿児島県医師会
代議員及び同予備代議員の選
出について | (4) 第4号議案 令和4年度公益社
団法人大島郡医師会収支予算(案) |
| (6) 第6号議案 第98回臨時総会
日程について | 日 時 令和4年3月5日(土)
18時30分から | 日 時 令和4年3月5日(土)
18時30分から |
| 場 所 大島郡医師会館4階
【報告事項】 | | |
| (1) 各担当理事からの報告
・10月理事会以降から現在まで
の活動報告(津畠庶務担当理事)
・新型コロナ感染状況及び自宅療
養者への往診等の対応について
て(野崎救急医療担当理事兼新
型コロナ対策担当班長) | | |
| 第1号議案から第4号議
案は、各担当から説明の
後、原案通り可決承認され
た。第5号議案の鹿児島県
医師会代議員及び予備代議
員の選出について代議員に
稲源一郎先生、嘉川潤一先
生、予備代議員に野口義夫
先生、津畠修先生を選出さ
る。第6号議案の定時総会
は、3月5日(土) 18時30
分から医師会館4階にて開
催することを承認された。 | (2) 医師会病院の今後の病
床再編について(坂元
医師会病院事務長) | (2) 医師会病院の今後の病
床再編について(坂元
医師会病院事務長) |
| | (3) 医師会病院電子カルテ
更新の検討状況につい
て(坂元医師会病院事務長
園園長) | (3) 医師会病院電子カルテ
更新の検討状況につい
て(坂元医師会病院事務長
園園長) |
| | (4) 令和4年度なぎさ園の收
支予算(案)(山田なぎさ
園園長) | (4) 令和4年度なぎさ園の收
支予算(案)(山田なぎさ
園園長) |
| | 【審議結果】 | |



I D・19 J M A T 奎美は
2020年8月、新型コロ
ナ軽症者宿泊療養施設開
設に伴い発足。当初は看護師の登録4名という体制
で、医師・県職員・保健所・
医師会スタッフの協力の
もと手順などを確認しな
がら入所者2名を迎えて
のスタートでした。

無事2名の方を送り出
すことができ一旦は閉じ

新型コロナ軽症者宿泊療養施設看護師の役割

奄美JMAT看護師一同

宿泊療養所での看護師の役割は、主として入所者の健康観察とPPE着脱の確認など感染防止対策である。発熱持続時や症状悪化時は速やかに病院搬送出来るよう状態観察し的確に医師へ報告するようになります。

入所者とは対面することができないため電話の声のみで健康状態を判断する必要があります。相手が話しやすいような声かけや、思いを伝えてもらえないように心がけながら接

入所される方は年齢も
2歳から85歳 喘息 糖尿病など基礎疾患のある方、希望して来られる方、不安な思いをもつてこられる方など様々です。高齢（最高85歳）の方が入所された時は、室内への案内や入浴時は携帯電話で誘導するなど安全に過ごしていただけるように細心の注意を払い対応しました。また「療養施設の設備環境では滞在できない。どうしても家に帰りたい」等と訴える

ともありました。
2022年1月、大島本島での感染拡大時は入所者数も80人を超える宿泊療養施設も2か所を同時に開所することとなり看護師4人がシフトに入り慌ただしく対応しました。津波警報発令時は看護師の判断で全員最上階へと避難誘導するなど初めての緊急時対応を行つたが、改めて災害に対する日頃の心構えが大切であることを痛感した経験でした。

新型コロナ収束はいつになるかまだ先の見えない状況ですが、担当医師、県職員、保健所などと連携し、今後も入所者が出来るだけ不安なく過ごせるように対応していきたいと思っています。

方もおり、そのような時も
その方の思いを伺つたり、
部屋を変えるなどの対応
をしたが、それでも滞在す
ることが難しい場合もあ
り、担当医師、保健所に相
談しご自宅へ搬送するこ

A photograph showing a group of approximately eight people working at a long, rectangular table in a modern office or study room. The individuals are seated around the table, focused on their work. The room has a warm, ambient lighting scheme with recessed ceiling lights. In the background, there are large windows and a whiteboard on an easel. The overall atmosphere is professional and collaborative.

2月になり大島本島での感染が落ち着き入所者数も減少傾向にあります。担当医師や県職員、ホテルスタッフの協力もあり、忙しい日々でも大きな問題や事故もなく過ごせていることに安堵しております。ある退所者の方から、「はじめは辛かったので1日3回の電話で癒されました。ご飯やホテルの事をやつてくださった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです」というお手紙をいただきました。対応に苦慮する事とも多々あるが、電話での何気ない会話の中で「安心しました」「心強いです」と話されたり、症状が落ち着いた時や退所が決まりする時に嬉しそうに話されたりする時、また無事に退所されていった時は私たちも療養のサポートが出来て良かったと思い、やりがいにもつながっています。



PCR検査等無料化事業の 経緯と経過のご報告

大島郡医師会臨床検査センター責任者
平田 龍

大島郡医師会臨床検査センター責任者の平田龍と申します。平素より大島郡医師会の先生方にほ
温かいご指導とご助言を賜り深く感謝致しております。

現在、当センターにお

『お言葉を頂きましたので、誠に僭越、また、拙文でございますがお許し願います。

コロナ禍の発生以降、『医療体制』と『検査体制』と（日々の生活）：これらをバランスさせることが大切だが、それはとても大変なこと』と多くの先生方からお聞きして参りました。そのような中、本年1月からの第6波の感染状況は、全国的にまさに医療・検査・生活に大きな混乱を生じさせるものでございました。

当地におきましても当初は多くの皆様がとても不安な気持ちで過ごされ

第6波が急速に拡がる中、『奄美群島の医療体制を守り、皆が安心して生活できるように、誰もがPCR検査を受けられる環境を早急に作らなくてはならない』との先生の方の強い想いとご要請をお受けし、検査センターとしてその実現に向けての任を担わせて頂きました。

職員全員で手配に全力を傾けました。準備を進める中で、（先生方と事務局からのお力添え）、（行政の皆様からのご理解）、そして、（鹿児島臨床検査センター株式会社パソラボグループ全体から、運営本部の設置・人員派遣・資材確保専用システムの貸与など）の全面的な応援体制）のご協力を頂きました。これら一つ一つを数日間の中でしつかりと結び付けることができた結果、当計画を先生方と検討し始めてから1週間足らずの1月15日より、当地最大のコンベンション施設である文化センター

検査実績は3月15日現在2660名（陽性30名）結果のご報告も行政機関や医療機関様と連携を図り混乱なく対処できております。

この度の運営を通して多くの受検者の皆様から感謝のお声掛けを頂きました。また、先生方からも私どもの身に余る温かい労いのお言葉を賜りました。職員一同、皆様からのお心遣いを大きめ励みとし、これからも奄美群島の皆様の検査センターとしての存在意義を決して忘れず日々の業務にあたつて参る所存でございます。

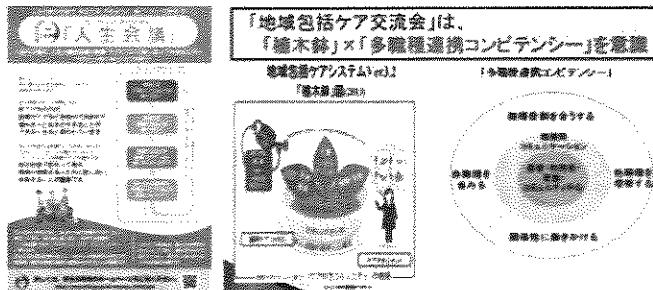
P C R 検査会場を開設することが出来ました。(行
政機関からのご要望で2月から名瀬新港の待合所に会

「地域包括ケア交流会」 開催！

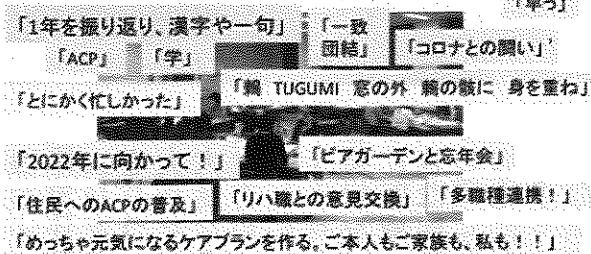
【第45回】 令和3年12月27日(月)18時30分～20時 於：大島郡医師会館4階ホール

テーマ：「2022年へ向かって」

1. 地域包括ケア交流会とACPについて(報告)



2. 植木鉢図を使った意見交換 (グループワーク)



今回は最初に「これまでの地域包括ケア交流会とACP(アドバンス・ケア・プランニング)」について在宅医療連携支援センターの報告を行い、その後のグループワークで、「2022年へ向かって」をテーマに1年を振り返りながらうまくいったことややり残したこと、今後取り組んでいきたいことなど、それぞれの意見を自由に語り合う時間を持ちました。毎回和やかな雰囲気の交流会ですが、今回初めて参加された方も多く、今後もこの交流会が関係機関や職種における「顔の見える関係」・「継続的な連携のきっかけづくり」の一助になれば幸いです。

【第46回】 令和4年2月28(月)18時30分～20時 於：大島郡医師会館4階ホール

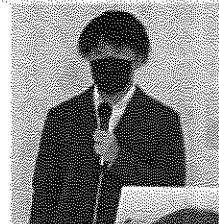
テーマ：「地域リハビリテーションについて」

講師：奄美圏域地域リハビリテーション広域支援センター 柿 悠貴 理学療法士

1. 「地域リハビリテーションって？」(講話)

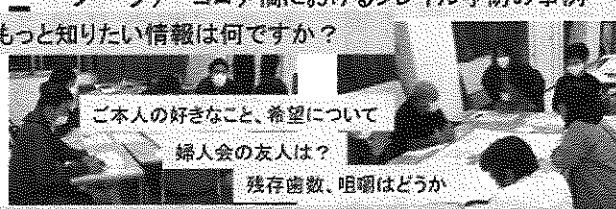
地域リハビリテーションの定義

地域リハビリテーションとは、障害のある子どもや成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め、生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織が「リハビリテーションの立場から協力し合って行なう活動のすべて」
(2016年改定、日本リハビリテーション調査会監修)



2. 植木鉢図を使った事例検討(グループワーク)～コロナ禍におけるフレイル予防の事例～

もっと知りたい情報は何ですか？



自分の役割は何ですが？また連携したい職種は？

地域とつながるためのきっかけづくり、サロンや介護予防教室への参加

医師として利用者の健康管理

かかりつけ医との連携

歯科医師との連携

地域住民や生活支援コーディネーターやリハビリ職との連携

薬の管理方法と一緒に考えたい



令和3年度最後の交流会は「ACP」と同様に地域包括ケアの鍵となる「地域リハビリテーション」をテーマに開催となりました。奄美圏域地域リハビリテーション広域支援センター柿氏による講話では、「地域リハビリテーション」の考え方や、センターの活動内容、奄美大島におけるリハビリテーションの資源についての紹介等がありました。今後の活動については、地域包括ケアシステムの実現に向けて、市町村が行う地域リハビリテーション活動支援事業へのリハ職の関与も含め、リハビリテーションの立場からその人の生活と人生を良くする活動をあらゆる関係機関と協力しながら行っていきたい、また地域からの相談を受ける窓口、地域とりハビリテーション専門職をつなぐ架け橋としてその役割を果たしたい、と述べられました。後半はコロナ禍でのフレイル予防の事例検討を行い、多様な視点から意見交換がなされ、それぞれの職種の理解が深まったのではないかと思います。奄美にターンされた理学療法士の方が「この交流会に参加し始めて、知り合いが増えました！」と語ってくれたのが印象的でした。

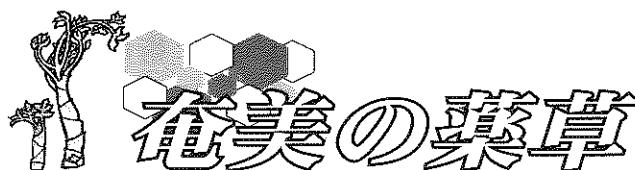
なぎさ園だより

令和4年1月16日

津波警報！



1月16日、深夜に突然発令された津波警報によりなぎさ園入所者も避難を迫られました。思わぬ渋滞が発生したためスタッフの参集も思うようにいかず、寒い夜ということもあり1階の入所者を2階(海拔約8m)に避難させることになりました。情報がなかなか入ってこず不安な夜を過ごましたが、皆さん静かにニュースを見ながら待機されておりました。7時過ぎに警報が解除されると安堵され「やっと部屋に戻れる」「疲れたね」等の声がありました。今回は幸いに津波はこなくて、入所者にも体調を崩す方などいなかったのですが、スタッフの非常参集や避難先での休息方法等様々な課題が浮き彫りになり今後の対策を早急に検討していきたいと思います。



奄美の自然を考える会顧問 田畠 満大

<ゴボウについて>

ゴボウと聞いても最近は、出番が少なくなつたような気がします。

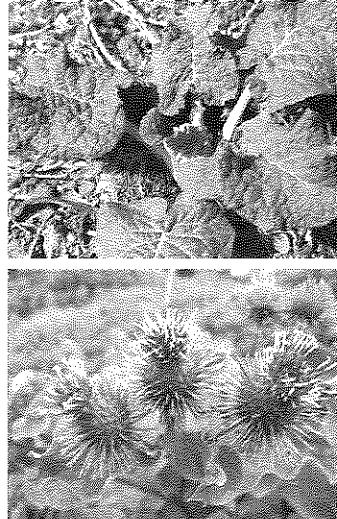
昭和30～40年代までは農家で栽培していましたが、現在栽培している農家はあるでしょうか？栽培していたとしても少ないでしょう。レシピでは、キンピラごぼうが多いのではないでしょうか。それにはんちん汁になくてはならない野菜ですね。

本題に入る前に、牛蒡の戸籍関係から調べてみると、原産地はユーラシア大陸北部、ヨーロッパ、中国だと言われています。日本には、10世紀以前に中国から薬草として渡来したと言われています。初めは主として薬用に使われていたようですが、平安中期になると野菜として食べられたとのことです。明治の頃に品種改良が行われ一般に食されるようになりましたといいます。

ゴボウは、キク科ゴボウ (*Arctium lappa L.*) 方言名、グヴ、ケンヴァー、など集落によって違いますが、皆さんの集落ではどんな名前が残っているでしょうか？

今回は牛蒡の成分と効能について考えてみたいと思います。まず、「これでわかる薬用植物」中田福市・中田貴久子著より紹介します。【成分】リグナン系苦味配糖体のアルクチゲニン、アルクチ、ラッパオールA-E、脂肪油など。【作用】消炎、解熱、排膿、浮腫除去、利尿。【用法】①消炎解熱、むくみに牛蒡子（ごぼうし）（ゴボウの種子を乾燥させた物：生薬名が牛蒡子）5～8gを1日分として煎じ、3回に分けて服用する。民間療法では、生葉を火に炙って柔らかくし、腫れ物（排膿）やリウマチ（消炎）に貼ります。【どうして効くか】牛蒡子のアルクチインは、中枢神経系に働き、末梢血管拡張により解熱効果を現します。消炎作用もこれに関連して生じるようです。抗菌作用があるとも言われます。牛蒡子のエキスにはむくみを取る働きがあり、これは利尿作用の結果ですが、その薬用成分はまだはっきりしていません。油成分が多いので緩下作用も現します。とのことです。

次に、ゴボウの栄養面から調べてみました。牛蒡に含まれる水分の割合は約80%と少ない。100gあたり、炭水化物が15.4gと多い野菜である。タンパク質1.8g、灰分0.9g、脂質0.1g、炭水化物は糖質と食物繊維に分けることができる。食物繊維が可食部100g



中に5.7gと豊富です。ビタミン類は少ないがミネラル類をバランスよく含有することがゴボウの特徴だと思います。その他カリウム、マグネシウム、亜鉛なども。ゴボウの皮には、ポリフェノールのクロロゲン酸も豊富です。クロロゲン酸は、牛蒡を水にさらした際の茶色の成分です。これが失われることがないように工夫が必要です。

食物繊維の中でも、特に水溶性食物繊維が豊富です。水溶性食物繊維の主体はイヌリンで、これはフルクトースの複合体です。

薬用として調べてみると、根、葉、果実の部分を用います。果実は漢方薬で、牛蒡子という生薬です。解毒作用があると考えられ、消風散（しょうかせさん）、柴胡清肝湯（さいこせいかんとう）などの方剤に処方されます。欧米では、根を薬用ハーブとしてハーブティに用います。根から抽出した油を頭皮に使われているようです。

日本には、薬草として中国から伝来し、発汗利尿作用のある根は牛蒡根（ごぼうこん）というほか浮腫、咽頭痛、解毒に用いる種子を牛蒡子と呼び用います。民間療法では、乳腺炎に種子をそのまま食べるか、煎じて飲む方法が知られています。ゴボウは解熱に効能があるということで風邪や咳に良いと言われています。湿疹、おでき、腫れ物などの化膿性疾患に牛蒡子を1日量5～8gを600ccの水で半量になるまで煎じ、3回に分けて服用することが知られています。風邪、喉の痛み、咳に、牛蒡子1日量2～3gを水400ccが半量になるまで煎じ3回に分けて服用するようです。浮腫（むくみ）には、牛蒡子を粉末にして、1日量3～6gほど3回に分けて服用するといいます。神経痛、リウマチ、関節炎には、生葉を火であぶり柔らかくして幹部に貼ると良いといいます。夏場に採集して日干して保存した葉は、浴湯料やうがい薬に使え、湿疹、かぶれにも効果があるとし、乾燥葉を煎じた液でうがいすれば、口内炎、扁桃炎、歯頸の腫れなどの炎症性疾患に良いとされているようです。

このように薬草としての効能を見てきました。野菜だとばかり考えていましたが、最初入ってきた時には薬草だったのですね。

最後に、食文化による誤解があったという話です。これは太平洋戦争中に英国人捕虜が牛蒡を「木の根」だと思い、木の根を食べることを強要し虐待されたとして、戦後、日本人将兵が戦犯として裁かれたことがあったという悲劇的な逸話が残っています。野菜として利用しているのは日本と韓国、台湾だけと聞きます。もっと広がりがありますか。どうでしょうか？調べてみては。また、健康に良いレシピなど工夫すれば良いのではと思います。ゴボウは一年中スーパーで買えますが、他は薬局など販売していると思います。生葉は、栽培しないと得られませんね。

学术講演会・研修会

◆4月13日(水) 19:00~20:00 ※オンライン開催
【疼痛診療Webセミナー in 奄美】(第一三共との共催)

【疼痛診療Websミナー in 奈良】(第一三共との共催)

座長：医療法人馨和会 いづら医院院長 桂 久和
特別講演「神経障害性疼痛に対するアプローチ～ミロガバリンへの期待～」
演者：岡山大学病院整形外科助教 鉄永 優子

◆4月22日(金) 19:00~20:00 ※オンライン開催

【大島郡医師会学術講演会】(バイエル薬品との共催)

座長：県立大島病院循環器内科部長 今村 春一
特別講演「脚を視て診る～エコーを活かしたVTE診療の実際～」
中央病院循環器内科部長／九州大学医学部臨床教授 小田代敬太

◎不明 || 十一%
の報告がなされていました
「がん」の主な病名を
典から引用してみましょう
○胃がん

○痛みがあまりなかつた
　　三六%。
○痛みがあつたと思う
遺族調査の回答では、
は、平成三十年十二月、初めて行われた「がん」患者の
間、体の痛みを抱えていることがわきました。これが
患者の終末期には、四割近くが、亡くなる前の一ヵ月
の全国調査によると、がん

医療従事者の信条と言える規範用語のひとつに、「医は仁術」があります。

「医者の心」は「仁」

元名瀨市立奄美博物館長
林蘇喜里

奄美の医療雑話

⟨55⟩

◎「舌がん」
が、進行するにつれて、食欲不振や胃の不快感から、次第に吐血・下血などの症状がみられるようになる。

◎「肺がん」
肺に発生する。初め気管
支の粘膜に発生し、咳・
痰・血痰・胸痛などの症
状がみられる。喫煙や大
気汚染などが原因となる。
「がん」は、早期発見によつ

て治療効果が期待できるが、無
なんらかの原因により、無
制限に増殖し、周囲の組織
を侵し、他へも転移して障
害をもたらし、放置すれば
生命をうばう病気であると
言われている。



式」の記事。感染対策には十分気遣いながら開催されたが、喜びもつかの間、5日には県内初のオミクロン株感染者が確認された。奄美でも日を追うごとに感染者が急増し、7日の一面は「警戒レベル5に引き上げ」に変わり、8日には県独自の緊急事態宣言が出された。何も成人式だけが感染拡大の理由ではないが、第5波が収束し、多くの方が家族との再会を楽しみに懃省したくなるのは致し方のないことだつたでしょう◆今月号の一面は「大島郡医師会の現状と課題」としての寄稿文となっています。昨年度の新型コロナ関連における医師会の取り組みや、奄美保健医療圏の地域医療構想調整会議が約一年ぶり（2025年）に開催され、

8月に開所された軽症者宿泊療養所のこれまでの体験談を寄稿してもらい、入所者と対面することができない中、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方々をサポートすることの苦劳や新規には、本当に敬意を表したいと思う◆1月15日より県から委託された「PCR検査無料化事業の経緯と経過」と題して臨床検査センターの平田所長にもご寄稿いただきました。皆様には、年度末の大変お忙しい中、快くお引き受けいただきありがとうございます。次号は7月1日発刊です。会員の先生からの出稿があると大変ありがとうございます。どうぞよろしくお願いします。